かながわヴォーカルアンサンブルコンテストにてオーディエンス賞受賞

富士通川崎合唱団男声部隊は 3 月 11 日（日）、神奈川県立音楽堂において開催された『第 14 回かながわヴォーカルアンサンブルコンテスト』（以下、KVEC）のフェスティバル部門に出場し、「オーディエンス賞」を受賞しました。

■場所　神奈川県立音楽堂（木のホール）
■演奏曲
(1) 無伴奏男声合唱による日本名歌集「ノスタルジア」から　故郷
　【作詞：高野辰之　作曲：岡野貞一　編曲：信長貴富】
(2) 男声合唱組曲「柳川風俗詩」から　梅雨の晴れ間
　【作詩：北原白秋　作曲：多田武彦】
■指揮：加藤雅子

終演後、メンバーの表情も晴れ晴れと

１．出場の経緯

本来は「混声」合唱団である私たち富士通川崎合唱団が、「男声」部隊を編成してイベントに参加するのは珍しい事です。

実は近年２度ほど、『関東おとうさんコーラス大会』という、男声合唱の魅力満載の祭典に有志（１度目は筆者など「低声が出るゾ」という女性も含む）で出場し、男声合唱専門の合唱団とは少し趣の異なる演奏という事で大変可愛がっていただいていました。「今年もぜひ『おとうさん』に出場したい」と考えていましたが、震災の影響等で準備が難しく、出場を断念したという経緯

がありました。代わりに、この KVEC への男声部隊の出場を団の“公式行事”の一つと位置付け、満を持しての参加となりました。

KVEC はその名の通りコンテスト部門が主体のイベントで、１次審査､勝ち抜くと総合審査に進んで総合１位の団体を決めるものですが、今回、我が男声部隊が参加するフェスティバル部門は､審査員ではなく観客にパフォーマンスを審査してもらう部門となっています。

☜ **KVEC プログラム**

２．当日の様子（練習）

今回のプログラムは、「故郷（ふるさと)」、「梅雨の晴れ間」という２曲。

「故郷」の様に、誰にでも良く知られた歌詞は、音楽に埋没させずメロディーに乗せて際立たせなければなりません。今回は美しくも難解な信長貴富氏編曲の版であるため、パート間で頻繁に発生する“メロディーラインの受渡し”をスムーズに行いつつ、調性を保つための和声的役割は完璧にこなさなければならない点がポイントになります。

一方の「梅雨の晴れ間」は、男声合唱の世界で一際愛されている作曲家・多田武彦氏による作品。北原白秋による詩の世界観を表現するため、やはり言葉を大事にする事はもちろんですが、今回、指揮者の加藤先生は全てのパートが細かい音程まで緻密に、厳格に歌うよう指導されています。そうする事で、多田作品が本来持つ美しさを引き出そうという狙いです。

直前まで、通し練習

男声部隊のメンバーは、午後の早い時間帯からいつもの練習場（ユニオンビル）に集合し、本番前の調整を綿密に行っていました。筆者は練習の後半から合流して聴いていましたが、通し練習 Take1、パート別の最終確認、通し練習 Take2 を経て集中力が増し、少しづつ内容が良くなっ

てきています。後は、本番で環境が変わり、良い面が出るか悪い面が出るか、というところです…。そして東日本大震災の発生から丸 1 年を迎え、日本のみならず世界中が祈りに包まれた時間、この練習場でも暫し黙祷を行いました。

練習中に 14：46 を迎え、暫し黙祷

３．当日の様子（本番）

会場の神奈川県立音楽堂には、今回は応援に回る「女声」部隊のメンバーも沢山来ていました。士気も高まったと思われる男声部隊は楽屋方面へ消えて行きます。女声部隊は我が子を見送る母の気持ちで送り出し、客席へ。

本番前、リラックスムード

ステージでは、そろそろコンテスト部門の終盤というところでした。４団体の男声合唱を聴いた後、いよいよフェスティバル部門です。富士通川崎合唱団男声部隊の入場を、女声部隊はハラハラしながら見守っていました。そして・・・。

１曲目、「故郷」。出だしのユニゾン（斉唱）で綺麗にテーマが提示出来たところでまず◎（二重丸！）、曲が進むにつれ、合唱に展開してハーモニーがホールに広がっていく様は、細い水の流れが広々とした川に行きつくようで、「山は青き故郷、水は清き故郷」という歌詞の世界を、朗々と歌い上げる事が出来ていたのではないかと思います。

２曲目、「梅雨の晴れ間」。曲が始まってすぐに少しパート間のテンポが乱れた所があってヒヤリとしましたが、すぐに立て直し、その後はかっちりと戻した上、練習中は意外に苦戦していた音程も、指揮者の指導が本番で花開いたようにはまっていました。クリアな音程と柔らかい音色を伴う事で、この曲本来のキラキラした魅力を、観客に届けられたのではないでしょうか。

オーディエンス（観客）の皆さんからも、コンテスト部門の上位団体と同じ位、熱い拍手をいただき、身びいきではなく、「オーディエンス賞」に相応しい立派な演奏でした。喝采の中、ホッとした女声部隊から思わず飛び出したコメント。

「こんなに本番に強い人たちとは思わなかった！！！」

晴れてオーディエンス賞（副賞付き）をいただきました

【記事・写真提供：富士通川崎合唱団　（ソプラノ）松林京子】